

I 福山市

ミッション

福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。

ビジョン

各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	チャレンジ&チェンジする力、自己理解力、自己表現力
・「オール新市」を掲げる中で、地域の良さの発信やボランティアの取組など、もっと地域を好きになる取組を進めてほしい。 ・HP などでの出前授業の取組（キャリア教育の取組）は興味深く、今後も継続して児童生徒にたくさん学んでいただきたい。 ・学校に登校できない子どもたちにも目を向け、そこへの取組をもっと発信した方がよい。（知らない人が多い。）	・全国学力・学習状況調査をはじめとした学力調査を踏まえ、基礎的・基本的な内容の定着に重点を置く必要がある。 ・キャリア教育の実践を通じ、校区で育てたい資質・能力を意識しながら様々な活動に取り組むことができおり、4 月当初から 12 月末で、肯定的評価をする児童生徒が増えている。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	・自分の目標達成に向けた計画を立て、取り組む児童生徒。そして、その取組を定期的に振り返り、改善策を考える児童生徒。 ・自分の将来の夢や目標を持つ児童生徒。 ・自分の思いや考えを相手に分かりやすく説明する児童生徒。 ・地元事業者や地域の方と育成したい資質・能力を共有しながら、出前授業、探究学習、職場体験学習、面接など、様々に取り組んでいく。

ミッション	育成する力 資質・能力	チャレンジ& チェンジする力	自己表現力	自己理解力	
夢や志を持って、自らの力でたくましく生きる児童を育てる	めざす子ども像	5 6 年	活動をふり振り返り、改善策を考える。	自分の思いや考えを、多様な表現方法を用いて説明できる。	自分の将来の夢や目標を持つ。
学校教育目標		3 4 年	困難な事にも挑戦し、最後までやりきる。	自分の思いや考えをまとめて表現できる。	自分の得意な事や、夢中になれる事を見つける。
自ら考え、心豊かで生き生きと活動する児童を育てる		1 2 年	自分のやりたい事に挑戦する。	自分の思いを相手に伝える事ができる。	自分のよさに気付く。
現 状	研究	テーマ	対話を通して自分の考えを更新できる授業の創造 ～互いの考えを認め合い、深め合う児童の育成～		
＜児童生徒＞ ・全国学力学習状況調査では、国語、算数ともに全国平均を下回っており、基礎学力の定着に課題がある。また、正答率 40%未満の児童の割合が、約20%と個人差が大きく、個別の手立てや支援が必要な児童が複数いる。 ・「自分の思いや考えを表現できた」児童は、86.0%で、自己表現力が高まってきているが、友だちの考えと比較することで、考えを広げたり深めたりすることには課題が残る。 ・年間を通して、体力向上のための自己目標をもって取り組むことで、「自分の体力の向上が感じられた」児童は 92.6%であった。 ＜授業＞ ・研修や互いの授業参観を通して、授業づくりに関わる対話を通して、教職員が意欲的に授業改善に取り組んでいる。 ・地域とのつながりを持った活動を継続することで、地域と共に学ぶ探究学習の推進とキャリア教育の充実を図る。	内容等	国語科「読むこと」領域の学習に、フレームリーディングの手法を取り入れ、自分のもっているフレームを生かしつつ、そのフレームを更新したり、新たなフレームを獲得したりしながら、文章のつながりを捉え、考えを深める授業づくりを進める。			
	めざす授業の姿		・対話を通して、新たな気付き・発見をしたり自分の考えを更新したりする授業 ・反応することを大切にし、互いの考えを認め合う授業 ・対話的、協働的で深い学びを実現するために必要な、基礎的な学力を確実に身に付ける。		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立戸手小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力 評 価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力 評 価	達成 評価	総合 評価	改善方策
5	子どもが学び に向かう力、 学び続ける力 を育成する。		継 続	＜チャレンジ& チェンジする力＞ を育成する。	自分の生活の課題 解決に向けて挑戦 し、規則正しい生活 習慣を身に付ける。 中学校区で設定した 木曜日の「メディアコ ントロールデイ」に、 全校で取り組む。	「以前より心と体 が健康になったと 感じられた」児童を 85%以上にする。 就寝前1時間のメデ ィア不使用が達成 できた児童90% 以上にする。									
5		☆	継 続	＜自己表現力＞ を育成する。	全ての授業におい て、自分の思いや考 えを表現する場の 工夫を行い、チャレ ンジウィークを通 して交流する。 基礎学力の定着のた めの授業や帯タイム の工夫を行い、取組の 効果を振り返る。	「対話を通して自分 の思いや考えを表現 できた」児童87%以 上にする。 単元末テスト(知技・ 国算)における正答率 40%未満の児童を 10%未満にする。									
5			継 続	＜自己理解力＞ を育成する。	児童が、主体的に課 題を発見し、自己目 標を設定して、実行 できるように、活動 を振り返る。	目標や夢の実現のた めに、「何をしたいか」、「何 をすべきか」考えるこ とができた児童を90%以 上にする。									
5	教 職 員 が 元 気・笑顔で勤 務できる環境 を 充 実 さ せ る。		見 直 し	業務改善を図るこ とで、教職員が、 支え合いながらやり がいや充実感を持 って教育活動を行 う。	子ども主体の授業 の実現に向けた授 業の自己目標を設 定し、取組の交流す ることで、授業改善 を進める。	授業づくりにおけ る自己目標に関わ る取組が児童の成 長につながってい ると実感できる教 職員の肯定的評価 90%以上にする。									

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。